

7月31日のウクライナ情報

安齋育郎

●トルコ大統領、中国外交トップと会談「NATO のアジア太平洋の活動支持せず」 (TBS ニュース、2023年7月28日)

トルコのエルドアン大統領は 26 日、中国の外交トップ・王毅政治局員と会談し、「NATO=北大西洋条約機構がアジア太平洋地域で活動を強化することを支持しない」との立場を表明しました。

中国外務省によりますと、トルコのエルドアン大統領は 26 日、首都のアンカラで外相に復帰した王毅政治局員と会談しました。

エルドアン氏は「トルコと中国は世界的影響力のある国だ」と述べ、貿易やエネルギーなどの分野で中国と協力を深めたいと強調しました。

そのうえで「トルコは NATO=北大西洋条約機構がアジア太平洋地域で活動を強化することを支持しない」と述べ、NATO がアジアで影響力を拡大することを警戒している中国に同調する姿勢を示しました。

これに対し、王毅氏は「互いの核心的利益に配慮し、両国の戦略的な協力を新たな段階に進めることを望む」と述べ、巨大経済圏構想「一帯一路」などを通じて関係をさらに強化する考えです。

中国としては、トルコとの関係を強調し、欧米へのけん制を強める狙いとみられます。



●ロシア系を差別するどころかリンチするウクライナ人(2022年9月15日)

<https://twitter.com/i/status/1570365267016028160>



●ウクライナ向けエイブラムス戦車の「改修」は何を意味するのか 軍事専門家が説明 (2023年7月29日)

ロシア外務省付属外交アカデミーの軍事専門家ワジム・カズユリン氏は、ロシアメディアに対し、米国はまずウクライナに供与する米製戦車エイブラムスから機密技術をすべて取り除くだろうと語った。

カズユリン氏によると、今年9月にもウクライナへのエイブラムス戦車の供与が始まる可能性がある。そのオリジナルの改良型には多数の先端技術が盛り込まれており、新しい射撃管制システムや熱画像パノラマ照準器が搭載されている。一方、ウクライナ向けのエイブラムスは事前に改修される予定で、その過程でまず劣化ウランを使用した装甲が除去される見込み。その開発の機密性が高いことが理由だとされる。カズユリン氏は「米国がドイツで行うことを決めた(ウクライナに)供与する戦車の改修は、もちろん、ロシア軍の手に渡らないようにするためにすべての機密技術を取り除くことを意味している」と強調した。

同氏によると、ウクライナ軍向けの米国製戦車はドイツからウクライナに送られる前にさらに修理して「きちんと仕上げる」必要があるという。カズユリン氏は、実際の軍事行動の性質、特に無人機(ドローン)が積極的に使用されていることを考慮して、ドイツでは「剥ぎ取られた」エイブラムス戦車の保護を強化したくなるはずだとの見方を示した。なお、ウクライナの乗組員はドイツのグラーフエンヴェーアでエイブラムス戦車の操縦訓練を受ける予定。訓練期間は10週間とみられている。

スプートニク通信は先に、ロシアが構築した地雷原によってウクライナの戦場で戦う西側の軍事機器の脆弱性が明確に示されたと報じた。



●ウクライナでのロシア軍の大成功で米国の軍事力神話が疑問視＝元英 MI6 エージェント (2023年7月29日)

ロシア軍のウクライナでの特別軍事作戦の大成功は米国の軍事力神話を完全に打ち砕いた。西側はウクライナでの自らの行動の結果を深く考えていない。英国の秘密情報部(MI6)の元エージェントのアラスター・クルック氏は YouTube チャンネル「Judging Freedom」に出演した中でこう指摘した。

クルック氏は米国の軍事力神話は「ウクライナで極めて残酷に壊された」と語っている。ここに至った原因は抜本的な変革がなされると約束されていた軍備システムの失敗にも、理論と実際の行動の

失敗にもある。クルック氏はまた、ウクライナ人が戦車に乗せられ、地雷原に送り込まれた様子は全世界が目にしたと述べた。

クルック氏はさらに、西側はウクライナで自らがどう行動すべきかを熟慮しないまま、間違いを犯し、弾薬不足に事実を公表していると指摘している。

「もしロシアがウクライナ紛争で我々を打ち負かしたらどうなるか。この問いを誰かが投げかけているだろうか？ 西側にとってはどんな結果になるだろうか？ この問いかけを誰かがしているとは私には思えない。彼らは『私たちは西側ではないか。負けるはずはない』と単に信じ切っている」

スポーツニクは、米ニュージャージー州の元判事が、米国はウクライナにおいてロシアに対して宣戦布告なしの戦争状態にあると明言した事実を伝えている。



●ウクライナでの強制的動員(2023年7月29日)



●ドイツのウクライナへの武器供与に反対するドイツ市民(2023年7月29日)

数百人のニュールンベルグ市民が、ドイツのゼレンスキー政権への武器供与停止を求めて街頭を埋

めた。

<https://twitter.com/i/status/1685162749628907520>



●ウクライナの赤ちゃん工場、戦争の混乱の中で記録的な利益を上げる(2023年7月28日)

一般的なウクライナ人が NATO の対ロシア代理戦争の中で苦しんでいる一方で、代理出産産業はビジネスが活況を呈している。代理出産産業は、裕福な外国人に子宮を貸すために、健康だが経済的に絶望的な女性の安定した供給を必要としている。

キエフ最大の ”赤ちゃん工場 ”のメディカル・ディレクターは、代理出産は「クライアントよりも貧しい場所の出身者でなければならない」と説明する。

スイスに本社を置く BioTexCom 社のイホール・パチョノハ氏は、世界で最も収益性の高い代理出産会社のひとつを築き上げたビジネスモデルは単純な搾取だと言う：「私たちは旧ソビエト共和国の女性を探しています。なぜなら、論理的に考えて、(女性は)私たちの顧客よりも貧しい場所の出身でなければならないからです」。

バイオテックス・コムがウクライナに目をつけたのは、経済的苦境を和らげるために子宮を売ってくれる若い女性のプールがほぼ無限にあるからだ。8年にわたる内戦と NATO 諸国とロシアとの代理戦争によって、ウクライナは経済危機に陥った。国民が貧困に沈むなか、同国は代理出産の国際的な中心地として急速に台頭し、今では世界市場の少なくとも 4 分の 1 を支配している。急成長する業界の台頭とともに、患者の虐待や汚職に満ちた薄汚い医療の裏社会も根付いた。

ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領とそのチームは、世界的な資産運用会社ブラックロックと投資提携を結び、労働者の労働保護を剥奪し、国営企業を民間企業に譲渡するなど、戦争で荒廃したウクライナの欧米による略奪を積極的に後押ししてきた。

しかし、2018 年だけで 15 億ドル以上を国内経済にもたらしたウクライナの代理出産産業については、あまり注目されていない。それ以来、代理出産の世界市場は 2 倍以上に拡大している。Global

Market Insights の分析によると、この産業は昨年 140 億ドル以上と評価され、今後も毎年約 25%成長すると予測されている。

代理出産産業の門戸を叩く国が増えるなか、欧米の政府関係者は、規制が緩和され、政治的に不安定なウクライナで盛んに行われている虐待にまみれたビジネスを見て見ぬふりをしているようだ。

ピッツバーグ大学の国際開発修士課程に在籍するエマ・ランバートンは、同国の代理出産産業がウクライナの女性にもたらすリスクについて、プリンストン大学の『Journal of Public and International Affairs』に論文を発表した。

「ウクライナの現場にいる擁護者たちの主な懸念は、議員や報道機関でさえ、これを人権侵害として見ていないことです」とランバートンはザ・グレイゾーン紙に語った。

「政府は、児童虐待のような人権侵害を、単に規制されるべきものとは見なさないでしょう。水曜日だけ子供を殴ることができるようにすべきだ」などとは決して言わないでしょう。ウクライナの現場にいる擁護者の立場からすれば、これは虐待の問題であり、したがって規制されるべきではなく、その代わりに非合法化されるべきなのです」。

2022 年初頭にウクライナで敵対行為が激化するずっと前から、ウクライナは自暴自棄になったウクライナ人女性を食い物にしようとする怪しげな人物や業者の肥沃な狩場として知られていた。

インド、タイ、ネパールのような規制制度が弱く、貧困層の多いアジア諸国も、人気の高い代理出産市場を提供していた。しかし、これらの国の政府は、業界トップによる人権侵害の記録を無視することができず、最終的には代理出産を求める裕福な外国人に門戸を閉ざした。

こうした各国の代理出産市場が制限されたことで、世界的な需要がウクライナに流れ、子宝販売業者間の底辺競争が始まった。現在、出産で利益を得る業者たちは、この産業を貧しい国から、隣国との泥沼の通常戦争の真っ只中にある国へと事実上輸出している。

「代理出産者は現在、紛争地域に留まるか、代理出産の合法性を認めていない近隣諸国に逃げるかの選択を迫られている。

「ウクライナの弱い立場にある女性や子供たちを守るためには、代理出産と人権侵害に関する国際的な合意が必要なのです」。

”人間扱いされない”:ベビーファームで人質にされる貧困層の母親たち

BioTexCom Center for Reproduction は、国際的な代理出産市場の最大手である。生殖技術サービス」のオーナーは 2018 年、同社が国内代理出産市場の 70%、世界市場の 25%を支配していると主張した。

BioTexCom のウェブサイトは、同社が世界中の何千ものカップルに「親になる喜び」を与えてきたと自慢しているが、その実際の歴史と業務からは、虐待、秘密主義、不正行為、さらには人身売買の疑惑など、はらわたが煮えくり返るようなパターンが浮かび上がってくる。

2018 年にアルジャジーラのインタビューに応じたウクライナ人女性アリーナは、バイオテックス・コムとの妊娠契約締結に至った状況をこう説明した。

「ウクライナで高給の仕事を見つけるのは難しい.....息子の大学の学費を準備したかったんです。

米国人カップルのために子供を身ごもった別のウクライナ人バイオテックス・コム代理母は、エル・パ

イス紙に、経済的な事情から自分の子宮を売ることに関心があると語った。「私は家庭を持たずに育ちました。自分のアパートを持つことは重要です。[代理出産は]私がそうすることができる唯一の方法なのです」。

BioTexCom 社のメディカル・ディレクターであるイホル・ペチェノハは、スペインの調査雑誌『La Marea』に対し、同社が貧しい地域の女性をターゲットにしていること、そして「代理母として働く人は皆、経済的苦境からそうしている」ことを公然と認めた。

「私たちは旧ソビエト共和国の女性を探しています。論理的に考えて、(女性は)私たちのクライアントよりも貧しい地域の出身でなければならないからです」とペチェノハは説明した。

「家を買ったり、子供の教育のためにお金が必要だからです」とペチェノハは続け、こう締めくくった：「ヨーロッパでの生活が充実していれば、そんなことはしないでしょ」。

自分の子宮を外国人に売ったあるウクライナ人女性は、BioTexCom のディレクターのコメントを認め、ガーディアン紙にこう語った。

「それに、夫が前線に出て行ってしまったので、他の 4 人の子供を養う方法が必要なんです。

「代理母は、保育器のようなものです」と、バイオテックス・コム別の元代理母は 2019 年に説明した。”彼らはあなたを人間として扱わない”

プリンストン大学の『Journal of Public & International Affairs』に掲載された 2020 年の報告書も、ウクライナの代理出産ブームを牽引する外国からの搾取に注目している。

”推進派は、女性が自由に代理出産を選ぶと主張しているが、弱い立場にある女性は、しばしば選択の提示によって操られている。代理出産希望者は、道徳的信条に反する可能性のある行為を通して家族を養うか、家族を養う経済的機会を失うかの選択を迫られる。”

外国人がウクライナの子宮を借りることを禁止しようとするウクライナのオクサナ・ビロジール議員は、オーストラリア放送協会(ABC)に対し、「ウクライナの代理出産には 2 つのカテゴリーがある。彼女は ABC に対し、代理出産はウクライナに多くの経済的価値を提供しており、非合法化は不可能かもしれないと主張した。

ビロジール氏は、ウクライナ政府を支配する腐敗したオリガルヒ的勢力が、代理出産産業に対する立法闘争を事実上妨げていると嘆いた。

「ビロジール氏は、ウクライナ政府を支配する腐敗したオリガルヒ勢力によって、代理出産産業に対する立法措置が事実上妨げられていることを嘆いた。「代理出産は、純粋にビジネスとして法律に盛り込まれたのです」。

ウクライナの代理出産産業に関するプリンストン大学の報告書の著者であるエマ・ランバートン氏は、バイオテックス・コムは実際にはウクライナ国内で活動している外国企業であると指摘する。同社のウェブサイトの文書によれば、同社はスイスで登記されている。

BioTexCom 社は裕福な銀行の中心地と関係があり、代理母のための最新鋭の施設と豪華な宿泊施設を誇示しているが、その宿泊センターの環境は 4 つ星ホテルよりも刑務所に近いという報告が相次いでいる。

防空壕の赤ちゃん農場

ウクライナの代理戦争が始まると、貧しいウクライナ人女性を犠牲にして外国人女性に赤ん坊を供給するという儲かるビジネスが、軍事化された姿勢をとるようになった。

『アトランティック』誌によると、同社は攻撃を受けても新生児生産が妨げられることなく続けられるよう、施設の近くに防空壕を確保したという。バイオテックス・コムが 2022 年初めに公開したビデオには、ベッド、ベビーベッド、寝袋だけでなく、ガスマスクも装備された典型的なシェルターが映っている。

ゴールデンタイムに放映された ABC ニュースのプロモーション番組では、同社がロシアの防爆ベビー工場を建設したことを紹介した。「ウクライナの代理出産エージェンシーは患者の安全を守るためなら何でもする」というのが、このセグメントのタイトルだった。

ABC のデービッド・ミュア記者は、ウクライナの “最大の代理出産エージェンシー ” が “患者とその赤ちゃんの安全を確保するために可能な限りの手段を講じている ” ことを称賛した。

そして、バイオテックス・コムのメディカル・ディレクターが、同社の医療水準は “非常に高い ” と、微塵も反論することなく主張するソフトボール・インタビューを取り上げた。そしてミュアは、彼が “勇気と勇気をもって ” このような “素晴らしい ” 会社で働いていることを称賛した。

バイオテックス・コムは、戦争から人口減少の脅威まで、人類が直面する最も困難な課題をビジネスチャンスとして扱っている。

代理出産の次の段階: 体外の人工胎児

バイオテックス・コムは、同社が宣伝した記事に添えられたメモの中で、発展途上国が直面している出生率の危機を取り上げ、同社の「人工授精技術」が「人類生存のチャンス」であると主張している。

”50 年後には、世界のほとんどの国の人口は半減する ” と宣言している。

BioTexCom 社のドイツ人オーナーであるトチロフスキー氏は、自社がバイオテクノロジー産業の最先端にいる限り、人工子宮で赤ちゃんを作り、コンピューターで遺伝子を編集するという未来的な生殖バイオテクノロジーにおける革命を約束すると主張している。

ウクライナの新聞『Delo』とのインタビューで、トチロフスキーは “生殖技術産業 ” の文脈でデジタルトランスフォーメーションについて語った。

トチロフスキーは、不妊率の上昇や、ハイテク億万長者のイーロン・マスクや中国の実業家ジャック・マーが広めた「人口崩壊」説を引き合いに出し、全人類はバイオテクノロジーによって救済されると主張した。

「生殖医療は人類の未来だ。」

「最も重要なのは人工子宮で、人体外で子供を育てる能力です。映画『マトリックス』で見た工場のようなものだ。私は 5 年から 7 年以内に、人工子宮を手に入れることができます」と。トチロフスキーは、バイオテックス・コムは “この方向で取り組んでいる ” と語った。

ウクライナのジャーナリストから、BioTexCom 社は赤ちゃん工場のエンジニアリングと組織化にまつわる法的・倫理的問題をどのように解決するつもりかと尋ねられたとき、CEO は、答えは簡単で、外部の監視をなくすことだと答えた。

”最も重要なことは、法執行機関が仕事に介入するのを禁止することだ ”と彼は主張した。



●ウクライナが北朝鮮のロケット弾を使用(2023年7月29日)

ウクライナの砲兵隊は北朝鮮製のロケット弾をロシアの陣地に向けて発射しており、平壤の軍需品を同盟国プーチン大統領の侵攻軍に向けることになる。

ウクライナによる使用がこれまで報告されていなかった北朝鮮製武器は、壊滅的な被害を受けたバクムト市近郊でソ連時代のグラド多連装ロケットシステム(MLRS)を操作する部隊によってフィナンシャル・タイムズ紙に示された。

ウクライナの兵器庫の起源は、第二次世界大戦以来ヨーロッパ最大の陸上紛争が、老朽化したソビエト製キットから最新の精密兵器まで、何世代にもわたる世界の軍備が入り乱れる大釜となったことを浮き彫りにしている。

ウクライナの砲兵司令官であるルスランによれば、北朝鮮製の弾薬は不発率が比較的高く、誤射や爆発に失敗するものが多いため、彼の部隊では好まれなかったという。マーキングによれば、ほとんどが1980年代から1990年代に製造されたものだという。

ウクライナのグラッド部隊のある隊員は、乗組員が北朝鮮製ロケット弾を発射する際、ロケットランチャーに近づきすぎないようにFTに警告した。

砲手たちは、ドネツク東部地域にあるバフムートの北側と南側で、ウクライナのロシア軍に対する攻撃を支援する砲兵部隊の中にいた。

ゲッティイメージズとラジオ・フリー・ヨーロッパ／ラジオ・リバティのジャーナリストは、6月下旬から今月初めにかけて、南部ザポリツィア地方で北朝鮮の軍需品を所持するウクライナ軍を撮影したが、北朝鮮製とは特定しなかった。

ウクライナの兵士たちは、ロケット弾がウクライナに届けられる前に、「友好国」によって船から「押収」されたと述べた。それ以上の詳細は明らかにしなかった。

ウクライナ国防省は、ロケット弾はロシア軍から奪ったものだと示唆した。「ウクライナ国防相の顧問であるユリイ・サック氏は、「我々は彼らの戦車を鹵獲し、装備を鹵獲した。

「ロシアは、北朝鮮やイランを含むあらゆる専制国家で、さまざまな種類の軍需品を買いあさってい

る」と彼は付け加えた。

平壤はロシアの全面侵攻を支持しているため、北朝鮮がウクライナに直接弾薬を提供する可能性は極めて低い。セルゲイ・ショイグ・ロシア国防相は今週、朝鮮戦争休戦 70 周年を祝い、北朝鮮軍との「協力強化」のために平壤を訪れた。

ホワイトハウスは 3 月、モスクワが平壤と武器を食料と交換する交渉をしている証拠を掴んだと主張した。国家安全保障会議のジョン・カービー報道官はまた、ロシア侵攻で最も長く血なまぐさいバフムートの戦いの最中、平壤がエフゲニー・プリゴジンのワグネル・グループにロケットとミサイルを売ったと主張している。プリゴジンはこの非難を「ゴシップと憶測」だと一蹴した。

グラドは、その名を「あられ」と訳す。ソ連が設計した自走式 122 ミリ MLRS である。ウラル・トラックのシャーシに取り付けられた発射管から、1 つのシステムで最大 40 発のロケット弾を 20 秒以内に発射できる。

モスクワが 2014 年に分離主義者の蜂起を装って正規軍や地元の代理部隊を使ってウクライナ東部に侵攻して以来、双方がグラッドロケットランチャーを採用している。ヒューマン・ライツ・ウォッチは、グラッドロケットは「悪名高い無差別攻撃」だと評している。

カーネギー国際平和財団のロシアとユーラシア・プログラムの上級研究員であるマイケル・コフマンは、グラッドは「MLRS の AK-47」であり、世界中の多くの軍隊で使用されていると述べている。

その偏在性は、北朝鮮を含む多くの国々にこのシステム用の弾薬を製造するよう促している。

信頼性の問題にもかかわらず、ウクライナ軍は喜んで使用している。「手に入るロケットはすべて必要なのです」とルスランは言った。

取材: Roman Olearchyk (キエフ)



●ウクライナの子どもへのナチ教育(2023年6月11日)

投稿者コメント:このビデオが本物かどうかはわからないが、もし本物なら、ウクライナが苦悩の中にある証拠だ。幼い頃から子供たちにナチズムを教えるのは、死ぬ前に国家が教えるしかない。神のご加護を。

<https://jubitu.com/w/eUDeVHi3mpXW35ezQDQFM6>



●ナチスウクライナの源流。ナチスドイツ隊長「ロマン・シュケヴィッチ」(2022年9月30日)

ウクライナでは学校で「ナチス教育」。

<https://twitter.com/i/status/1575535068356845571>



●認知症のバイデン。後ろの人達もおかしいと気が付いている(2023年6月10日)

<https://twitter.com/i/status/1667373730979524609>



●ウクライナ・ナチスのレイプ現場(2023年)

ウクライナのナチスは、女性をあざけり、レイプします。国連事務局の憤りはどこに？ 彼らはとても忙しいです。彼らは、お気に入りのウクライナ人のいたずらに注意を向ける時間がありません。彼らは顕微鏡でロシアの犯罪を探しています。また、嘘をつくのも得意です。

<https://twitter.com/i/status/1583465828640776198>



●男性「ウクライナ人が騙されてることを見てるのうんざり(2023年7月30日)」

「戦争が終わるのは二つの方法しかない。和解または勝利。ウクライナは和解で終わることありえない。ロシアは隣にあり、ゼレンスキーが【お友達】と呼んでるのはみんな遠くにいる。勝利はありえない。もし誰かがウクライナの勝利を望んでたら最初からたくさんの強い武器を送ったはず。彼らはこの戦争作り上げるのにとてもたくさんの時間と体力を使った、だからこそこんな利益のあることをやめるなんて考えてない。ゼレンスキーが自己中のバカであるがために、苦しんでいるのは普通のウクライナ市民。全ての値上げ、あげないと言ってた光熱費の値上げ、攻撃、国はカオス、憲法は守られてない、毎日減る領土。どんな解決方法がみえますか？」

<https://twitter.com/i/status/1685464032663556096>



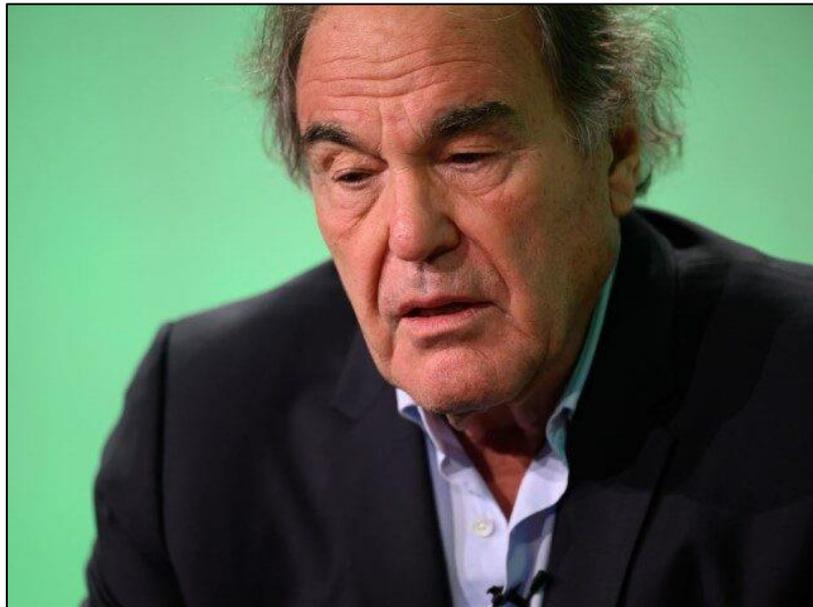
●オリバー・ストーンの後悔(2023年7月28日)

オリバー・ストーン監督は、2020年の選挙でジョー・バイデンに投票したことを後悔していると述べ、大統領がロシアとの第三次世界大戦の可能性に国を引きずり込もうとしていると警告した。

「私は彼に投票した。ストーンは俳優ラッセル・ブランドとの新しいインタビューでこう語った。

「(バイデンは)もしかしたら自分の政権を担当できていないかもしれない。彼がどこかで倒れるかどうかは誰にもわからない。彼は私たちを愚かにも、譲るつもりのない国との対決に引きずり込もうとしているようだ」と付け加えた。

ストーンは2017年、Showtimeの4部構成のドキュメンタリー番組『The Putin Interviews』でロシアのウラジーミル・プーチンにインタビューした。



●元米諜報将校、ゼレンスキー氏が宇軍に攻撃を命じた理由を語る(2023年7月30日)

元米海兵隊諜報将校のスコット・リッター氏は、YouTubeチャンネル「JudgingFreedom」のインタビューで、ウクライナのゼレンスキー大統領が同国軍に攻撃を命じた理由について、ウクライナが提示するのは別の条件で西側諸国が紛争を終わらせる用意があるという疑いを抱いたからだとの見方を示した。

リッター氏は「我われ(編注:米国)は、それについて公に話してはいない…(しかし)我われは、この紛争の必然的な終結に向けてウクライナを準備している。彼らの条件とは合わない別の条件で。まさにそのため、ウクライナは頑なに攻撃を続けている。ウクライナは前線に部隊を投入している。それは軍事支援が継続されれば戦場で勝利できると、米国および北大西洋条約機構(NATO)を説得する必要があるからだ」と述べた。

リッター氏によると、すでに西側諸国はウクライナがロシアとの紛争で勝つことはできないということを受け入れており、ロシアのプーチン大統領の条件で紛争停止に関する交渉を行う用意があることをしっかりと示すようウクライナ政府に示唆しているという。

リッター氏は、ゼレンスキー大統領はウクライナ軍が戦場でまだ勝利できることを西側諸国に証明しようとしてウクライナ軍の攻撃を再び続行させたが、ロシアがすでにほぼ勝利しているため、それは

不可能だとの考えを示した。



●ロシアの新兵器はウクライナ軍にとって深刻な脅威＝メディア(2023年7月29日)

ロシアの軽量多目的誘導ミサイル「305」(または「イズデリエ 305」)は、ウクライナ軍にとって深刻な脅威となっている。フォーブス誌が報じている。

同誌によると、この効果の高い新しいミサイルは、遠く離れた敵の兵士の集団や装備を殲滅、破壊することができ、シリアでのロシア軍の戦闘経験を考慮して開発された攻撃ヘリコプターKa-52の改良型などから発射することが可能。

英国防省が最近発表した報告書によると、Ka-52の改良型では制御システムと新型ミサイルが統合された。

フォーブスは報告書を引用し「これは射程約15キロの軽量多目的誘導ミサイル。Ka-52の乗組員は、ウクライナの防空システムの範囲外からこの兵器を発射する能力を用いることを迅速に習得した」と報じた。

フォーブスはこの新兵器について、「ロシア軍の戦闘能力の大幅な向上だ」と指摘している。ミサイルはレーザー誘導だけでなく、赤外線カメラおよび衛星測位システムを組み合わせで使用されているという。

これより先、ウクライナ軍人は米メディアに対し、ウクライナ軍はロシアの無人機「ランセット」に手を焼いていると語った。

